

学力 C テストの数学は、例年と比べ大問数が 1 題増え、全 7 題構成となりました。問題数は全 23 題で例年とほぼ変わりませんでした。

大問 1~3 は例年通りの小問集合であり、難易度は低めでした。大問 2 問 3 の 2 次方程式の問題は、左辺を展開して解の公式を使うと計算が大変になってしまいます。 $-63$  を右辺に移項して、平方根を利用して解くようにしましょう。また、大問 2 問 6 の角度計算は、 $\triangle DBC$  の外角を利用すると  $x+0.5x=120$  より簡単に答えを求めることができます。

大問 4 では、基準値を用いた表の読み取り問題が出題されました。問題文で示された数値は基準値ではなく、逆算を用いて考える問題だったため、戸惑った生徒が多かったのではないかでしょうか。今までにはあまり見られなかったパターンの問題だったこともあり、正答率は低かったと予想します。

大問 5 は確率の単元から、定番の双六問題が出題されました。問題文の解釈を誤ると条件を勘違いしてしまう可能性があり、難易度のわりに正答率は低かったのではないかと予想します。

大問 6 は関数と面積の問題でした。 $OC : CE = 3 : 4$  より、点 E および点 D の座標を求めることができれば、難なく解くことができたのではないかでしょうか。

大問 7 の証明問題は 3 段論法を用いるため、例年より難易度が高かったと思います。ただ、証明方法は、直角三角形の合同の証明とほぼ変わらないため、2 年生内容がしっかり身についている生徒にとっては、簡単だったと思われます。

総評として、今回の学力 C テストの数学は学力 B テストよりもさらに難易度が下がり、比較的得点しやすい問題が多かったようです。

また、問題文の長いものがいくつか出題されており、文章を正確に読み取る力も試されていると感じました。今回得点が伸びなかつた生徒の中には、問題の条件を見落として、もったいない間違いをしてしまった人もいるのだろうと思います。

今回で学力テスト ABC 全てが終了しました。テスト後の見直しが大事なのは皆さん理解していると思いますが、数学の見直しにおいて最も大事なことは、類題を解けるように解法のパターンを身に付けることです。

社会や理科のような科目と異なり、数学の場合「同じ問題」を目にするることは稀です。問題の答えだけを見直しても意味がありません。また、その問題の解き方だけを理解したとしても、他の類題に対応できなければやはり意味がありません。

一度目の見直しで解き方を理解したら、類題練習に取り組んで問題のパターンに慣れてていきましょう。数学においては、問題の意味をいち早く理解し、どれだけ早く解法を見つけられるかが勝負の分かれ目になります。

これから受験本番まで、限られた時間を有効に使って悔いのないように勉強していきましょう。頑張れ受験生！